

# 西洋画のやうな日本画

芥川龍之介

青空文庫



中央美術社の展覧会へ行つた。

行つて見ると三つの室に、七十何点かの画ゑが並んでゐる。それが皆日本画である。しかし唯の日本画ぢやない。いづれも経けい営えい慘さん憊たんの余よになつた、西洋画のやうな日本画である。まづ第一に絹や紙へ、日本絵具をなすりつけて、よくこれ程油絵じみた効果を与へる事が出来たものだ、その点に聊いささ敬意を表した。

そこで素しろうと人考へに考へて見ると、かう云ふ画を描く以上、かう云ふ画の作者には、自然がかう云ふ風に見えるのに違ひない。逆に云へばかう云ふ風に自然が見えればこそ、かう云ふ画が此こ処こに出来上つたのだから、一いち応おうは至極御しごくごもつと尤もである。が、素しろうと

人はかう云ふ画を見ると、何故なぜこれらの画の作家は、絵具皿の代りにパレットを、紙や絹の代りにカンヴァスを用ひないかと尋ねたくなる。その方が作者にも便利なら、僕等素人の見物にも難ありたくはないかと尋ねたくなる。

しかしこれらの画の作者は、「我々には自然がかう見えるのだ。かう見えると云ふ意味は、西洋画風にと云ふ意味ぢやない。我々の日本画風にと云ふ意味だ」と、立派りっぱな返答をするかも知れない。よろしい。それも心得た。が、これらの画の中には、どう考へても西洋画と選ぶ所のない画が沢山たくさんある。たとへば吉田白流氏の「奥州路」の如き、遠藤教三氏の「嫩葉ふたばの森」の如き、乃至穴山義平氏の「盛夏」の如きは、皆この類たぐひの作品である。

もし「我々の日本画風」が、かう云ふものであるとすれば、それは遺憾みかんながら僕なぞには、余り結構なものとは思はれない。まづ冷れいこく酷こくに批評すると、本来剃かみそり刀てで剃そるべき髭ひげを、薙なぎなた刀てで剃そつて見せたと云ふ御手柄おてがらに感服するだけである。さうして一応感服あとした後では、或は剃刀を使つた方が、もつとよく剃れはしなかつたらうかと尋ねたくなるだけである。

もつと尤も七十点かの画が、悉ことごとくこの種類だと云ふ次第ぢやない。たとへば畠はたけ山やま錦きん成せい氏の「貴美子きみこ」の如きは、少くともかう云ふ西洋かぶれの幣へいは受けてゐない作品である。如何いかに奇抜きぼつがつた所が、せめて此ここ処こまでは漕こぎつけてゐないと、どうも僕等素人しろうとには、ちと新しい日本画としてのレエゾン・デエトルが覚おぼ束つかな

いかと思ふ。もつと書きたい事もないではないが、何しろ原稿を受け取りに来た人が、玄関に待つてゐる始末しまつだから、今度はまづこの辺へんで御免ごめんを蒙かうむる事にする。悪わる口ぐちは岡目をかめ八目はちもくの然らしむる所以ゆゑんだと大目おほめに見て頂きたい。(九・七・十八)

# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。



# 西洋画のやうな日本画

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>